

一般質問 (要旨)

第1回定例会では、3月2日、3日、4日の3日間にわたり20人の議員から一般質問が行われました。各議員の主な質問と答弁を要約して掲載します。



正木 きよし

副市長への事務委任について

副市長への事務委任について、現在はどういうになっているのか。

地方自治法第167条に基づき、自身の判断で、柔軟に市政を運営してきたため、副市長には事務委任をしていない。

有料ごみ袋の減額について

市長選の公約である減額は。②有料ごみ袋の年間収入は幾らか。③50%減額提案するがどうか。

①ごみ減量推進と負担軽減を勘案し判断する。



市原 広子

明治大正昭和期の歴史遺産の保存を

①明治大正昭和期の歴史や遺構評価の現状。②市史は農村としての狛江や地形を描くべき。③多摩川土手は歴史的な遺産ではないか。④育まれた自然の醸し出す景観について評価の上、景観指定を。⑤多摩川は都景観軸に指定された。景観行政を積極的に。⑥自然や景観は情念を育てる。プレーパークが多摩川べりにある意味。⑦土手は通過道路ではないと思うが、いかがか。

①歴史的位置づけ、評価が定着しているもの



浅野 和男

和泉多摩川緑地への都立公園誘致について

平成26年12月に東京都長期ビジョンが策定され、「新たな」都立公園整備が明記された。和泉多摩川緑地への都立公園誘致に向けた整備推進構想を策定し、東京都の協議をより本格化していくか。

和泉多摩川緑地への都立公園誘致は、東京都長期ビジョンの具体的実現に向けた緑の政策展開の一翼を担うと認識。9月までに構想として取りまとめ、東京都や関連機関との協議を本格化していきたい。



狛江市を全国に売り込むシニアセールスプランについて

平成28年に予定されているラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭は非常にすぐれた企画だが、日本国内外からのかなりの集客を想定しているか。②現時点での準備の進捗状況は。

①来客数は調整中のため見込みを立てていない。②市長みずから東京国際フォーラムを訪問、前夜祭においてもルネ・マルタン氏に開催希望を伝えた。昨年12月には担当者レベルの打ち合わせを行った。



吉野 芳子

豊かな市民のくらしを守り育てるために

①生産緑地解除への市の対策②緑の減少の防止策③災害時オープンスペースの確保④産前産後ケアの課題と解決策⑤移転後の子ども家庭支援センターでの一時保育実施は⑥生活道路の安全性向上の取り組み。

①都の取り組みを注視②確実に確保を目指す場所を都市計画決定を実施予定③場所の確保を進める④積極的な周知が重要⑤ニーズ等を踏まえ検討⑥今後、マナー周知の工夫や自転車走行空間を調査研究。

「食はいのち」地産地消と食育をすすめるよう

①地場野菜生産者の現状と供給の課題②小学校給食の地場野菜使用量の推移③給食センター調理委託の入札状況と給食の特徴④市の食堂の役割と実績⑤メニュー改善や料金設定の検討⑥高齢者の栄養改善。

①労働力減やブランド価値の向上②毎年ほぼ横ばい③公募型プロポーザルで選定、生きた教材を実現④狛江産野菜約3割、福祉団体の物品販売⑤運営事業者と検討⑥介護予防教室や配食サービス等実施。



太田 久美子

環境に配慮した魅力あるまちづくり

①福祉作業所での分解資源化事業の成果。②小型家電回収の取り組み。③「花いっぱい」事業の進捗状況と評価。

①携帯電話とパソコンの分解の実施。就業意欲の向上。②新規にピックアップ回収を開始。③駅前を実施し、まちづくりに寄与。

狛江の学校教育の学力向上について

①保育園と小学校の連携を。②英語教育早期化に対する教育委員会の考え。③貧困家庭の子どもへ

環境に配慮した魅力あるまちづくり

学習支援を。①来年度の展望等、意見交換を実施②指導要領改訂に合わせ学年・時期・内容等実施③支援のあり方を検討し、施策に繋げる。

子供たちの命を守るまちづくり

①居所不明児童対策の強化。②悲惨な事件につながるらないよう関係機関の連携を。③「ネウボラ」制度活用について。

①横浜市での取り組み等を今後とも研究。②共通認識のもと支援の方向性を関係者で共有。③支援を体系的に示し、活用いただく。



本橋 文武

狛江市のみどりについて

①貴重な緑を保全する取り組みは。②みどりの減少を少なく、みどりを創出する取り組みは。③「農」を育てていくための取り組みは。④「生物多様性保全」の必要性は。⑤「生物多様性」の保全に対し市の取り組みまた今後の展開の取り組みまた今後の展開の取り組みは。⑥「ネウボラ」と市民による管理。⑦緑のまち推進補助制度等の活用。⑧狛江ブランド野菜や有機栽培農業等への支援。⑨生物が生存していく上で不可欠なものとして認識。

①重要な緑を保全する取り組みは。②みどりの減少を少なく、みどりを創出する取り組みは。③「農」を育てていくための取り組みは。④「生物多様性保全」の必要性は。⑤「生物多様性」の保全に対し市の取り組みまた今後の展開の取り組みは。⑥「ネウボラ」と市民による管理。⑦緑のまち推進補助制度等の活用。⑧狛江ブランド野菜や有機栽培農業等への支援。⑨生物が生存していく上で不可欠なものとして認識。

①平成26年度の取り組み内容について。②今後の取り組みについて。

①5月に調布警察署、7月及び9月に東京都建設局並びに北多摩南部建設事務所と協議を行った。②早期着手及び早期完成に向け、東京都等の関係各機関と協議調整を進めていく。

①「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について②「まち・ひと・しごと創生総合戦略」とはどのようなものか。③2月3日に成立した平成26年度国の補正予算の中にある「地域住民生活等緊急支援のための交付金」の用途と金額について。④「地域住民生活等緊急支援のための交付金」を活用して、狛江市が行う予定の事業内容は。⑤プレミアムつき商品券事業については東京都からも交付金が交付されるということだが、交付予定額は。



小川 克美

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

①「まち・ひと・しごと創生総合戦略」とはどのようなものか。②2月3日に成立した平成26年度国の補正予算の中にある「地域住民生活等緊急支援のための交付金」の用途と金額について。③「地域住民生活等緊急支援のための交付金」を活用して、狛江市が行う予定の事業内容は。④プレミアムつき商品券事業については東京都からも交付金が交付されるということだが、交付予定額は。

①長期ビジョンを踏まえ2015年度を初年度とする今後5カ年の政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたもの。②2つの型があり、地域消費喚起・生活支援型は地域の消費喚起に直接効果がある事業を絞ったものと、地方創生先行型は地方版総合戦略の策定に必要な費用及び、地方版総合戦略に盛り込まれることが見込まれる事業が対象となる市の交付見込額は8946万円。③プレミアムつき商品券事業と地方版総合戦略の策定等。④2200万円。

①長期ビジョンを踏まえ2015年度を初年度とする今後5カ年の政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたもの。②2つの型があり、地域消費喚起・生活支援型は地域の消費喚起に直接効果がある事業を絞ったものと、地方創生先行型は地方版総合戦略の策定に必要な費用及び、地方版総合戦略に盛り込まれることが見込まれる事業が対象となる市の交付見込額は8946万円。③プレミアムつき商品券事業と地方版総合戦略の策定等。④2200万円。

①長期ビジョンを踏まえ2015年度を初年度とする今後5カ年の政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたもの。②2つの型があり、地域消費喚起・生活支援型は地域の消費喚起に直接効果がある事業を絞ったものと、地方創生先行型は地方版総合戦略の策定に必要な費用及び、地方版総合戦略に盛り込まれることが見込まれる事業が対象となる市の交付見込額は8946万円。③プレミアムつき商品券事業と地方版総合戦略の策定等。④2200万円。

①長期ビジョンを踏まえ2015年度を初年度とする今後5カ年の政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたもの。②2つの型があり、地域消費喚起・生活支援型は地域の消費喚起に直接効果がある事業を絞ったものと、地方創生先行型は地方版総合戦略の策定に必要な費用及び、地方版総合戦略に盛り込まれることが見込まれる事業が対象となる市の交付見込額は8946万円。③プレミアムつき商品券事業と地方版総合戦略の策定等。④2200万円。